

東京工業大学理学院・系外惑星観測研究センター

■ 今年度後半(2019年10月～2020年3月)の188cm望遠鏡の利用日数

- 研究利用:177夜(東工大、東大、岡山理科大、国立天文台、アストロバイオロジーセンター、総研大、名古屋大)
- 観望会:6夜(浅口市)

■ 188cm望遠鏡および観測装置の運用状況

- 望遠鏡およびドームは約2ヶ月に一度のペースで定期的に点検、深刻な問題は発生していない。
- 昨年9月17～20日に恒例の188cm望遠鏡およびかなた望遠鏡(広島大)の主鏡蒸着作業を国立天文台の協力のもとで実施した。
- 高分散分光器HIDESの制御PCに不具合が生じ一時観測に支障を来したが現在は回復。現在、HIDESでの観測はほぼ全て自動観測で行われている。
- 望遠鏡やドームの点検、装置交換には東京工業大学、東京大学、岡山理科大学、アストロバイオロジーセンター、京都大学、京都産業大学、総合研究大学院大学、国立天文台の教員、研究員、学生が多数参加した。
- 来年度、ドーム工事を予定している。

■ 2020年1月29日:令和元年度第2回188cm反射望遠鏡運用協議会(国立天文台-東工大-浅口市)

- 今年度の運用報告と来年度の運用予定を協議
- 次回は2020年7月の予定

■ 2020年3月2日:2019年度188cm望遠鏡ワークショップ開催(東工大)

- 今年度の運用の総括、来年度の運用体制、将来計画等を議論